



小野寺 純子

日本フィンランドデザイン協会
副理事長

ひとつの国と共に歩む100年、 そしてこれから

ひとつの国を知れば知るほどもっと知ろうと思うし、付き合い合えば付き合い合うほど、もっと付き合い合おうと思うものだ。フィンランドは私にとってまさしくその国である。

日本フィンランドデザイン協会 (JFDA) は2000年にヘルシンキ芸術大学の学長であったユルヨ・ソタマ氏とGKデザイン機構会長の榮久庵憲司氏(故人)によって創設された。それ以来私も20年近く両国のデザインを通じての文化、経済の交流の促進に携わっている。

われわれのフィンランドという国に対しての日本での窓口は、駐日フィンランド大使館であり、フィンランドセンターである。ペッカ・オルパナ大使はフィンランドの大事な記念行事には必ずお招きくださり、お会いするたびに「JFDAは今どんな活動をしていますか?」と気に掛けてくださる。幸いなことに、2019年に2カ国の外交関係樹立100周年記念を迎え、両国でそれぞれに記念行事が行われた。われわれは、両国の交流の歴史をたどってこれまでの外交・デザイン関連の

100年の年表を作成し、オルパナ大使に直接贈呈できたことは思い出深いこととなった。フィンランドのJFDAにも協力していただき、世界を含む両国の代表的な歴史的出来事、外交に関する事項、デザイン・文化に関する事項の3分野でまとめた。100年を振り返ることで、あらためてお互いの国をさらに深く理解できこれからのつながる未来が見えてくる。

フィンランドは国連の世界幸福度ランキングで4年連続(2018~2021年)1位を取っている。その理由として、福祉制度の充実や自然環境との共生ライフスタイルはもちろんのこと、今回のパンデミックの対処も評価された。

また、伝統的に生活の中の美を配慮してきたその文化は、小物や装身具、建築に至る生活のためのデザインへ活かされている。コロナ禍で在宅が多くなった人々の日常生活で、いかに心豊かに暮らすかということへのヒントをフィンランドという国から学ぶことは多い。



オルパナ大使ご夫妻(左・中央)と筆者(右)。日本フィンランド外交関係樹立100周年記念の年表を贈呈。オルパナ大使(右)と島崎信JFDA理事長(中央)と筆者(左)。同。

